

平成23年度事業シート(概要説明書)《※平成22年度実施事業》

事業の概要	事務事業名	読書啓発事業						担当部	教育委員会事務局			
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	図書館			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降			担当係	図書係		
	総合計画 分野別計 画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		4 図書館を充実する					
		副目的										
	予算区分	款	10	項	5	目	8	大	2	中	3	
	根拠法令・個別計画	図書館法、小牧市子ども読書活動推進計画、小牧市次世代育成支援対策行動計画										
	実施・運営 方法	○ 市が直接実施・運営				地域住民組織				一部又は全部委託		
		指定管理・外郭団体		名称:								
		NPO・その他		名称:								
目的 (対象をどの様な状態にするのか)	各種行事を開催することで乳幼児期から図書に親しむ機会を提供するとともに、小中学校図書館の支援、ボランティアの協力による「読み聞かせ」などの事業を実施することにより、自発的な読書活動ができるような環境を整備する。											
内容 (手段)	乳幼児・児童及びその保護者を対象とする各種講座を開催し、読書の有効性や楽しみを伝える機会を設けた。 4か月検診時に、本を通じた親子の交流を図るため、絵本のプレゼントとボランティアによる読み聞かせを行った。 小中学校図書館へ司書資格者(臨時職員)を派遣し、学校図書館運営事務や、専門的知識を生かして児童・生徒への図書内容紹介や読み聞かせ等の読書支援を行った。 読み聞かせボランティアを養成し、子どもに対する読み聞かせ機会が充実していくようにした。 業務分担として、正職員は年間事業や講座の企画立案から実施、年間に受入れる児童書の選定及び予算執行、各臨時職員やボランティア活動の指導・対応等を行い、読み聞かせ等の児童サービス行事や施設配本団体の希望する図書の選定を実施し、小中学校図書館の運営事務については、司書資格を持つ臨時職員やボランティアと連携しながら行った。											
受益者負担	無	内容										

		単位	H21決算額	H22決算額	H23予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	2,402	2,429	2,522	
		正職員	従事者数	人	0.76	0.76	0.76
			人件費	千円	4,077	4,077	4,077
		その他職員	従事者数	人	6.00	6.00	6.00
			人件費	千円	17,395	17,428	17,926
		費用合計		千円	23,874	23,934	24,525
	対前年比		%		100.2		
財源	一般財源	千円	23,874	23,934	24,525		
	国・県支出金	千円	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0		

業	活動指標	活動指標名	単位		H21	H22	H23
		績	成果指標	成果指標名	単位		H21
ブックスタート事業	回			目標	48	48	48
				実績	48	48	
施設巡回図書配本事業	回			目標	130	290	280
				実績	289	270	
子ども・親子・ボランティア向け講座	回			目標	9	9	9
		実績	9	11			
施設巡回図書配本冊数	冊	目標		19,000	22,000	23,000	
		実績		22,036	22,455		
各講座参加者数	人	目標		300	300	300	
		実績		289	347		

事業の自己評価（一次評価）	事業目的の達成状況	読書啓発に係る各行事等を予定どおり行うことができ、施設巡回配本では、市内各児童クラブや放課後子ども教室等を含め、各施設に対して希望に沿った配本を行うことができた。 これら年間をとおしての各行事や事業において、子どもの成長過程や生活圏域に合わせた図書に親しむ機会の充実や読書啓発を支えるボランティア育成などを図ることができた。		
	事業を廃止・休止したときの影響	将来を担う子どもたちに対する読書習慣づけや、図書館利用者の裾野を広げていく図書館行政の根幹が失われてしまう。		
	判定	A	市が実施(現状維持又は充実)	
	判定理由	読書啓発事業は、国の「子どもの読書活動推進に関する法律」の趣旨に沿い、特に将来を担う子どもを育成していく極めて責任ある事業であり、当市はその地道な各事業や行事を継続して実施できている。		
今後の事業の方向性（今後の取組み・改善計画等）	国や県の計画に沿った小牧市子ども読書活動推進計画の第2次が策定され、この計画内容を実現していくため、今後も、お話し会、絵本紹介、ボランティア養成などの行事や講座についてより有効な内容を企画実施し、また、施設の希望に合う配本も積極的に展開し、読書啓発の推進を図っていく。			

二次評価	判定	A	市が実施(現状維持又は充実)	
	判定理由	一次評価のとおり		